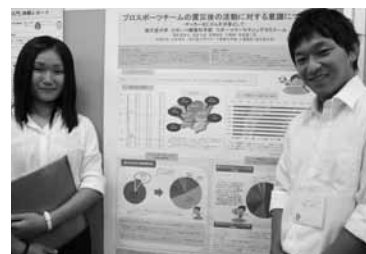
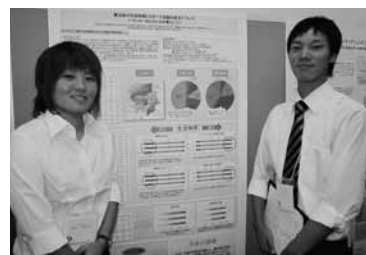




イベント学会 第14回研究大会

イベントが 都市を創造する

東京スカイツリー®の出現と街づくりイベントの可能性



CONTENTS

イベント学会 第14回研究大会.....2

9月7日(水).....3

- ・開会宣言 師岡 文男 大会実行委員長 ・来賓挨拶 山崎 昇 墨田区長
- ・提言 2011 堺屋 太一 会長
- ・基調講演 橋爪 紳也 イベント学会副会長
- ・シンポジウム ～東京スカイツリー®の出現と街づくりイベントの可能性～
- ・展示ブース発表 ・レセプション

9月8日(木).....16

- ・口頭発表 ・ポスター発表 ・閉会式

事務局からのお知らせ.....20



イベント学会 第14回研究大会

イベントが都市を創造する

～東京スカイツリー®の出現と街づくりイベントの可能性～

2011年9月7日(水)・8日(木)の両日、東京・墨田区にてイベント学会第14回大会を開催いたしました。テーマは「～イベントが都市を創造する～」。来年開業を控えた東京スカイツリーに程近い国際ファッションセンターを会場に、初日は「東京スカイツリー®の出現と街づくりイベントの可能性」をコンセプトにした基調講演やシンポジウムを実施。二日目の研究発表では、東日本大震災後の5月よりスタートした「復興イベント研究会」の研究内容をはじめ、イベントに関する様々な研究成果を発表。二日間の参加者は410名になりました。



イベント学会第14回研究大会

テーマ：～イベントが都市を創造する～
 コンセプト：東京スカイツリー®の出現と街づくりイベントの可能性
 会場：国際ファッションセンター
 後援：墨田区、すみだ地域ブランド推進協議会、東京商工会議所墨田支部、一般社団法人墨田区観光協会、向島学会
 協賛：アサヒビール(株)

9月7日(水)

●11:30～17:00 展示ブース発表

●13:00～ 開会式

「開会宣言」 師岡 文男 大会実行委員長 イベント学会理事 上智大学教授
 「来賓挨拶」 山崎 昇 墨田区長
 「提言 2011」 堺屋 太一 イベント学会会長

●13:25～ 「基調講演」 ～タワーとイベントの歴史～

橋爪 紳也 イベント学会副会長 大阪府立大学特別教授

●14:20～ シンポジウム ～東京スカイツリー®の出現と街づくりイベントの可能性～

【モデレーター】 水野 誠一 すみだ地域ブランド推進協議会理事長
 【パネリスト】 阿部 貴明 墨田区観光協会理事長
 鈴木 道明 東武タワースカイツリー(株)代表取締役社長
 鈴木 重美 タワー評論家
 宮木 宗治 静岡文化芸術大学 講師

●16:00～ レセプション

「主催者挨拶」 成田 純治 イベント学会理事長 (株)博報堂代表取締役会長
 「プレゼンテーション」 佐原 滋元 向島百花園「茶亭さはら」亭主

●17:30～ オプショナルツアー(墨田区観光協会主催)

9月8日(木)

●10:00～ 口頭発表 21題

●13:10～ ポスター発表説明 4題

●16:10～ 閉会式

●開会宣言 師岡 文男 大会実行委員長(イベント学会理事 上智大学教授)



今年の日本は、度々想定外の災害に見舞われております。こうした時こそ、地道な復興活動とともに、復興活動に強烈なインパクトを与えて元気づけるイベントのチカラが試される時だと感じております。

今回のテーマは、来年開業いたします東京スカイツリーをめぐる街づくりを、イベントがどのように盛り上げていくかです。東京スカイツリーの完成は、日本にとって非常に明るいニュースです。上野、浅草、墨田区の界隈が、東京スカイツリーの出現によって活性化することにより、東京を中心に様々な発信ができるのではないかと考えています。

本日は、基調講演とシンポジウムを通じて、東京スカイツリーにまつわるイベントの可能性と、またその果たす効果を検証して参りたいと思います。明日は、イベント学会員による、自由な研究発表が行われます。今年は過去最大の25題の研究発表の申込みがございました。

イベント学会では、東京スカイツリーをテーマに研究

大会の準備をする一方で、震災復興をテーマにしたイベントの研究も急務と考え、野川副会長を座長に「復興イベント研究会」を立ち上げ共同研究を積み重ねて参りました。明日はその研究成果9題、さらに一般的なイベントの研究も多数用意されております。そして、震災復興イベントに関連して、堺屋太一会長からも「提言2011」が発表されます。

今日はおもに東京スカイツリー、明日は震災復興を中心にしながら、2日間イベントを様々な角度から考えていきます。ぜひ、多くの皆さんにご参加いただき、盛んな議論を通じて盛り上げていただきたいと思います。

この研究大会をスタートするにあたり、ご後援・ご協賛・ご協力をいただきました皆様に厚く御礼を申し上げ、開会をここに宣言いたします。

●来賓挨拶 山崎 昇 墨田区長



今日は、歴史あるイベント学会の研究大会を墨田区で開催していただき、心から御礼を申し上げたいと思います。そして、堺屋会長ほかご関係の皆様の日頃のご活躍に敬意を表しております。

本日のテーマは、「東京スカイツリー®の出現と街づくりイベントの可能性」とうかがっております。東京スカイツリーは、建設段階から多くの見物客の方がおみえになり、周辺は連日大変な賑わいです。また、様々なメディアで紹介される場面も多く、私共といたしましては日本の新しいランドマークとして、この東京スカイツリーを売り出していきたいと思っております。こうした状況の中、「国際観光都市すみだ」を目指して、これから様々な施策を展開する予定でおりますが、今日これからの基調講演、シンポジウムを通じて、我々にも大きな示唆をいただけたと思います。

イベントと申しますと、今年3月に発生しました東日本大震災の影響から、自粛をするケースが多数ございました。私も墨田区では、隅田川花火大会という大きなイベントがあり、この開催について様々な議論が続けてきました。被災地の皆様の心情を想う面、あるいは協賛企業がなかなか集まらないなど、経費等々の問題もあり中止しようとも考えたのですが、この隅田川花火大会には慰霊ということも目的として実施されてきた経緯もあり、実施することにいたしました。1ヵ月遅れの開催になりましたが、私は改めてイベントを実

施することの意義を考えさせられたところでございます。

これから「国際観光都市すみだ」を目指すにあたり、いかに観光客、リピーターに墨田区にお越しいただくかが課題でございます。ある時、故木村尚三郎先生のエッセイを読みました。観光地としてリピーターを引き寄せるには3つの要素があると書いてございました。1つは治安が良いこと。2つ目は美味しいものがあること。3つ目には地域の方々のもてなしの心。この3つがあれば、リピーターは必ず戻ってくると書いてございました。従って、我々は一生懸命こうした施策を打ち出しているわけでございます。

イベントは大変多くの要素が絡み合って成功に終わるものでございます。そうした観点からも、今日は多くのご示唆をいただいて、東京スカイツリーと墨田区にもっとも観光客が訪れる、元気のある街にしていきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い申し上げまして、私のご挨拶とさせていただきます。



司会：上代圭子(東京国際大学 講師)

「提言2011」



堺屋 太一 イベント学会会長

■今こそイベントのチカラで日本の復興を

本日は、イベント学会のテーマとして、いくつかの提案をしていきたいと考えております。

墨田区には、東京スカイツリーという大きな名物ができました。言わば、街の「鼻」ができたような感じでございます。しかし顔が魅力的になるには、「目」と「口」が大事でございます。「目」は目ヂカラ。人々が楽しむような街づくりが必要です。「口」は宣伝力。皆さんの噂になるようなことが必要です。それから、やはりブランドづくり、名物づくりが必要だと思います。

今、日本は東日本大震災を受けて非常に苦境に立っています。1990年代初頭のバブルの崩壊以来、後退が続いていた日本経済にとどめを刺すような、言わば「第三の敗戦」のような状況を招きました。やはりここでしっかりとしたイベントをつくり、人々に新しい勇気を与える、新しい想像力を掻き立てなければいけないと思います。そこで、本日は2つの提案をしたいと思います。

■世界初の移動式博覧会を東北で

まず第1は、震災復興のために移動式博覧会を考えたい。この復興は、震災以前の東北を復興するのではあまり意味がないと思っています。やはり博覧会を行い、世界に訴えることが必要だと思います。一方で、被災地が広範囲なため、会場の場所が絞りにくい。従って、世界で最初の移動式の博覧会を実施したらどうかと考えます。

具体的には、今後4年間を目途に長さ40フィート程の大型電気自動車を開発し、その1台ずつを開口してパビリオンとする。これを機に、大型電気自動車と電池の開発をぜひメーカーにお願いしたいと思います。そして企業や団体に、1～3台を使って出展していただき、LEDやロボットなど、最新の技術を使って、100台のコンボイが移動する博覧会を開催したいと考えます。

このコンボイを駐車するために、各開催地に市立公園を整備する。大型トラックが二重三重に並んで、100台集まると相当賑やかになります。2週間に1回ずつ会場を移動し、10都市巡回すると約30週間で冬を除いて行える。もちろん、外国の政府や都市、企業にも出展招請します。開催する各都

市で、一定の入場者と物販などの収益があれば赤字にはなりません。黒字にできる事業であり復興に貢献できると思います。税金の投入は、会場となる公園整備に要する公共事業だけ。こうしたことが、日本から始まれば、必ず世界中から評価されるのではないかと考えます。

■ミラノ博覧会を契機に日本の「食」を世界に

もう1つは、2015年に行われるBIE公認のミラノ万国博覧会です。イタリアらしく「食」がテーマですが、ここで日本食のパビリオンを民間企業で出せないか。これは上海万国博覧会の日本産業館と同じ手法で、まず各出展社による視察旅行を実施し、その一部の費用を企画・立案にご寄付いただく。例えば、100万円の出資金のうち、経費は50万円、50万円はご寄付いただく。そういった形で、まずタネ金を作ります。この視察旅行を今年中か来年早々にやりたい。

「食」の博覧会に出展することは、日本の農業水産業を高級化する第一歩になると思います。今、TPP加入による日本の開国が叫ばれています。しかし、今の農業水産業の発想は、50年前の食糧増産時代と同じで、量だけ拡大しようとしています。これを、高級品をつくる農業にして輸出にも力を入れます。国際産業にするためには、日本の食材、食事が世界で高く評価される前提が必要であり、それがこの「食」の博覧会に出展しようという論点です。ここで評判になると、日本の農業水産業は大いに形が変わるでしょう。日本の食や、農業水産業に対して自信を与える市場と、ブランドをつくるのが大切だと考えています。これから4年、着実に実行していく。まずは視察団を結成して、基本構想を何回も出して、出展企業を集めてパビリオンを実現する。イベント学会をあげてのテーマになるのではないかと考えています。

こういった実務的なテーマを掲げて、本当に何かを結実させる学会として、この墨田大会が意義あるものになることを強く期待しております。ぜひ皆さん方もそういった観点から、鼻のできた墨田に目ヂカラをいかにしてつけるか。そして、日本の未来を拓く新しいイベントをどのようにつくりだすかをお考えいただきたいと思います。

PROFILE

堺屋 太一 (さかいや たいち)
イベント学会会長

1935年大阪生まれ。東京大学経済学部卒業(1960年)後、通商産業省入省。日本万国博覧会を担当。沖縄開発庁に出向中は沖縄海洋博や観光開発を手掛けた。1962年通商白書では「水平分業論」を展開し、世界的に注目される。1978年に退官。作家として予測小説手法を開発、「油断!」「団塊の世代」「平成三十年」などのベストセラー小説のほか歴史小説「巨いなる企て」「峠の群像」「豊臣秀長」「世界を創った男チンギス・ハン」を執筆。また、1985年に出版した経済理論「知価革命」は世界8ヵ国語に訳され、90年代の世界を予言した書として国際的評価を得ている。(財)アジアクラブ理事長、国会等移転審議会委員、政府税制調査会委員などを歴任。1998年7月より2000年12月まで経済企画庁長官を務める。2010年には上海万国博覧会日本産業館代表兼総合プロデューサーを務めた。



■ 基調講演 ■ ■ ■ ■

～タワーとイベントの歴史～

橋爪 紳也 イベント学会副会長 大阪府立大学特別教授



■研究仮説「建築は見世物である」

私がタワーの歴史を調べるようになり25年ほど経ちますが、大学院の建築学科で勉強する中で、従来誰も考えてこなかった研究の柱を立てようと考えました。

1つの大きなテーマが「建築は見世物である」という仮説です。従来、歴史的に有名な建築が見世物だという議論はありませんでした。しかし金閣寺や清水寺、東大寺の大仏殿など、歴史に名を残す建物はすべからず奇を衒い、従来なかったものであると思に至りました。金閣寺は、和風の建物の上に禅宗の中国風のお堂を乗せ、上は中国風、下は和風、全面金張りで池に映る姿が素晴らしい。これはパビリオンです。しかし、当初は奇抜だった建物が、50年、100年、200年経つと、伝統的で美しいという物語に収斂され、文化財という評価を得てきた。それが建築の歴史だと考えました。

この発想を都市に広げたらどうなるか?私は、都市はこうした見世物、スペクタクルの集まりだと考えます。アトラクティブなものが集まって、先人達は誰も見た事のないような都市をつくってきたのではなからうか。そういう視点から、20年ほど前に「明治の迷宮都市」という本を書きました。

こうしたテーマで論文や本を書いている中で、いくつか従来にはなかった視点に気づきました。近代の都市の見世物を語る上で、空中から街を見晴らす視点が出てきます。それを装置化した余興がパノラマ館です。博覧会場などでは、パノラマ館やジオラマ館の手法で、本来は不可能な視点からの景観を楽しむことができる。それをより具体的につくったのがタワーだと言えます。見世物の研究書には「タワーは見世物である」と既に書かれている。建築学の常識にはなかった発想なので、私は驚きました。

■見晴らし効果と見上げる効果

実際に、都市の俯瞰景観は圧倒的なスペクタクルであります。パノラマ景観を見晴らす視点場を提供する一方で、存在そのものも見世物であるわけです。今回のテーマである東京スカイツリーは、まさに周辺部の街から抜きん出て聳え立っております。634mの高さ、「反り」と「むくり」のある和風のデザインは、展望台から見晴らす大スペクタクルと、見上げる対象としての大スペクタクルを併せ持っています。

一方で、自由の女神のような象徴性の高いタワーも見世物であります。その由緒や付託された個性が、記号化され、象

徴的な意味合いを持つことで、周囲の風景も含めてスペクタクルとして理解されます。象徴性の高いタワーは、しばしば複製されます。お台場の自由の女神は、当初はレプリカでしたが、後に材質も含めてパリにある原型そのままの本物の複製品が置かれました。自由の女神だけでなく、お台場の景観は人を喜ばせるような要素で構成された見世物的な断片がちりばめられた大パノラマです。等身大ガンダムがお台場の潮風公園に据え置かれたのも必然かもしれません。

■タワー群と突出したタワーの対比

また、タワー群を特殊な景観と見る場合もあります。マンハッタンが典型ですが、最近では上海の浦東などが好例です。東方明珠電視塔がまずランドマークとなり、続いて金茂大廈、上海環球金融中心が竣工しました。現在中国の資本によって3本目のタワーができています。様々なタワーが様々なネオンサインやイルミネーションで輝き、1つとして同じデザインのタワーがない。タワー群がつくる大景観もスペクタクルであると言えると思います。

このように考えると、墨田区の東京スカイツリーと、上海あるいはマンハッタンの景観は対局にあります。全体がフラットで低層なビルディングの中に抜きん出て高いタワーが聳えた景色と、タワー群としての景観とは実に対照的です。

アラブ首長国連邦のドバイは、双方の特徴ある景観を見ることができます。近年竣工したバージュカリファは、高さが828mと世界一の超高層ビルディングを誇っています。砂漠の都市に抜きん出て高く聳えています。足下は超高級ホテルと世界最大級のショッピングモールがあり、毎晩ここで巨大噴水のショーをタワーの上から見下ろすことができる。現時点で、世界で超高層ビルディングの数がもっとも多い都市はドバイだそうです。ありとあらゆるタイプのタワーがあります。中心市街地や海沿いの新都市には、200m級のタワーが林立しています。ランドマークとなっている全室スイートのホテルであるバージュドバイを含め、それぞれの外観が異なっている。1つとして同じデザインはない、ドバイは建築のミュージアムだというのが、彼らの自負だということでした。

■次々に出現する個性的なタワー

高さの比較や集積の度合いだけで、世界のタワーが個性を出している訳ではありません。上海環球金融中心などでは、高さではなく、ビルディングのスペックを重視して設計がなさ

れたと言います。要は、タワーにおいても、高さの一方でクオリティの議論もあるだろうと私は考えます。

世界には、他に例のないタワーが各地に存在します。有名な事例がラスベガスのストラトスフィアタワーです。タワーの屋上にジェットコースターが走り、タワーからはみ出るように絶叫マシンがせり出している。あるいは、マカオのタワーにはスカイウォークというものがあり、安全のための命綱を付けて屋外を1周回ることができる。バンジージャンプをすることもできます。

シンガポールに竣工した、マリーナベイサンズというカジノリゾートのホテル棟も実に個性的です。ホテルが3棟、超高層空中庭園で連結をしている。船をイメージしたデザインなのですが、最上階に3棟にまたがるデッキがあり、その屋上が庭園やレストラン、プールになっている。建築物に様々な新しいアトラクションや娯楽機能を付加することで、従来なかったタワーを形にすることができたわけです。

■「イベント」と見なしたタワーの研究

見世物の定義は様々ですが、人を魅了し、多くの人が魅力的だと感じるスペクタクルは、総じて見世物であると考えます。見晴らすタワー、見上げるタワー、個性的なタワー、いずれも都市にあって非日常の見世物であるということです。これを言い換えますと「タワーはイベントである」とも言えるのではないのでしょうか。東京スカイツリーができるプロセスを、数多くの人が定点観測で写真を撮り、映像を撮り、YouTube等にあげる。そのプロセスが、個人的なイベントであると同時に、社会全体で共有しているイベントと化しています。

タワーをイベントだと理解するようになる1つのモデルは、1889年の第4回パリ万博で建築されたエッフェル塔です。多くの案から、万国博覧会のシンボルとして鉄のタワーが選ばれました。これは単なる展望塔ではなく、上の方には気象観測の施設があり、博覧会場全体を照明する器具を設置する足場でもあった。さまざまな意味合いの上に建設され、10年程度で壊されるはずだったものが、現在に至るまでパリのシンボルになっています。世界中誰もが知っているタワーになり、最近ではLED照明による斬新なイルミネーションが実施されています。

この博覧会の見世物が、時間の経緯の中で磨かれて市民の誇りとなった点に注目したい。逆に言えば、市民に愛される存在にタワーをいかに変えていくのかという発想が、タワーをイベントとして見なししていく時の重要な視点であります。

エッフェル塔を先例に、博覧会場ではシンボルとなる建物を建設するアイデアが、しばしば具体化します。シカゴ博覧会の場合は、フェリス・ホイールという巨大な観覧車がシンボルタワーの役割を兼ねてつくられました。また、電化生活が大きなテーマでしたので、電気のパビリオンに電飾を施した塔がシンボリックに置かれていた。私はこちらの方が、博覧会全体のテーマを体現しているタワーであり、巨大な観覧車は展望台というような意味合いを持っていると考えます。

もう1つ、現在に至る塔のプロトタイプが示されたのが、

ニューヨーク郊外のビーチリゾートのコニーアイランドで、従来はなかったテーマパークが人気を集めます。1つはルナパークで、月世界旅行を体験できるというもの。この経営者が、月の世界を再現するために3つのアイデアを示したそうです。1つは、世界の諸民族の建築様式を全て集める。もう1つは、何百ものタワーを林立させる。そして、イルミネーションで園内を光り輝かせる。月のテーマパーク全体のランドスケープデザインを考える上で、タワーをたくさん建てる方法論が採択されたことに注目したいと思います。

ルナパークに対抗して、ドリームランドという遊園地も開業します。ここには、シンボルタワーが1つつくられました。このタワーが、後のマンハッタンのアールデコのプロトタイプになったと言われております。上に行くに従って尖っていき、上に行くほどアールデコの装飾でデコラティブに仕上げる。そこに投光を行い光り輝かせる。ライトアップしていく上で都合が良いことから、当時の電気技師などが考え出した造形であり、後のマンハッタンのオフィス棟などに継承されていくわけです。博覧会場やアミューズメント施設でテストされた新しいデザインが、一般の街のタワー等に影響を及ぼしたということが言えるでしょう。

もう1つ、非日常のタワーの原型が映画の世界等で提唱されます。20世紀初頭のドイツ映画「メトロポリス」に、機械的なイメージの象徴的なタワーがでてきます。科学技術が進化した未来都市において、タービンをイメージしたような超高層タワーの最上階に市長がいて圧政を行うという設定でした。

このように、エッフェル塔的なもの、博覧会やイベント空間に立ち現れたシンボリックなもの、コニーアイランド的なもの、そして空想世界で描かれたメカニカルなタワーなどが、我々のタワーの原風景にあると考えます。

■明治20年代から始まる日本のタワー史

日本のタワーの歴史を振り返ると、私が調べたところでは、今から120～130年前に、日本中でタワーを競い合う大ブームがありました。浅草の凌雲閣は有名ですが、これと同様に見世物のようなタワーが日本各地にありました。例えば、明治21年に竣工した大阪の眺望閣。こちらの方が、浅草よりも早い開業です。人気を集めるために、物産会を行ったり、桜を植えた庭園で花見大会を行ったり、催しを繰り返しておりました。タワーの足下に複合的なイベント空間や商業空間を併せ持つビジネスモデルは、明治20年代から日本人が実践してきたものです。

眺望閣に対抗するために、大阪にもう一つ凌雲閣というタワーができました。9階建てで開業し、玉ねぎ型のロシアドームを乗せて10階建てに増築しました。東京の凌雲閣よりも我々の方が本家であると「本家凌雲閣」と広告したようです。凌雲閣も下の方に庭園があり、料亭やお風呂、馬やボートに乗れる、遊園地の中に聳え立ったタワーです。

東京、大阪だけではございません。短期で解体されたものも含めて、明治初期には博多や松山駅前、広島、岡山にも同様の展望台があったようです。もちろん、前近代において

は五重塔や天守閣など、象徴としてのタワーが各都市に聳えていました。火の見櫓のような上から見渡すような塔もありました。これに対して、大衆的な遊び場として、近代の塔は異なる意味合いを託されました。前近代は信仰や権威の象徴だったものが、近代では都市のアイコンとして認知されるようになったわけです。

やがて日本でも、パリ万博のエッフェル塔の成功が知られるようになります。明治36年に大阪で行われた第五回内国勧業博覧会では、大阪で最初のエレベータを大林組がパビリオンとして建設いたしました。また、東京での平和博覧会には、上野の池の真ん中に「つちや足袋」が広告塔を出しました。タワーの上から噴水が落ち、据え置かれた投光照明が会場全体を照らすような演出が行われました。各地の博覧会で、夜景をつくる上でタワーが重要な要素になってきます。

大阪では、明治45年に通天閣が竣工します。エッフェル塔風の鉄塔で、足下の建物は凱旋門をイメージしている。凱旋門にエッフェル塔を突き刺した。パリのシンボルの上にパリのシンボルを突き刺した。誰が見てもパリだろうという、大阪らしい直喩です。そもそもは博覧会跡地の再開発事業ですが、北半分がパリのような放射線状の街路になっていて、通りごとにテーマ性のあるショッピングモールになっていました。道の交点に通天閣が建ち、南側にコニーアイランド風のルナパークという遊園地。その南にバーデンバーデン風の温泉、国技館、電気旅館などが占めている。要はタワーを中心として面的にテーマパーク風の街を再開発したわけです。ルナパークの園内には、エジプトの風景を再現するジオラマ館や、北ヨーロッパにあるタワーを模倣し、ビリケンを祀ったホワイトタワーなどがあった。通天閣とホワイトタワーという2つのタワーの間を、ロープーウェイがつかないでいました。世界各地の断片を集めるという発想は、アメリカの遊園地の発想でしょう。

要するにシンボルタワーを中心に、常設の博覧会場、言い換えればワールドショーケースをつくらうとした。こうした全体計画の元に、塔のある街づくりが行われていました。

■時代を経て新たな役割を託されたタワー

大正から昭和初期にかけて、もう1つの鉄塔の系譜が生まれます。それが電波塔です。わが国では、内藤多仲先生が戦前・戦後を通じて、多数の電波塔を設計されています。戦後復興のシンボルとして、名古屋のテレビ塔ができました。これを見て、大阪の人達は戦災で失った通天閣を再建したいと、自ら出資をして会社をつくり、まったく異なるデザインで通天閣を復興しました。いずれも内藤多仲の作品です。

東京タワーも内藤多仲が手がけました。足下に蠅人形館があったり、マジックランドというサイエンスミュージアムがあったり、単なる展望台ではないことを強調しております。内藤多仲は、その後京都タワーの構造設計をして、別府タワー等も構造設計しております。

この東京タワーとともに、戦後を代表する重要なタワーとして大阪70年万博の太陽の塔をご紹介したいと思います。大阪万博のシンボルタワーは、未来都市の姿を示すメタポリス

ムのEXPOタワーです。対して、岡本太郎プロデューサーがつくった太陽の塔は、テーマ館の地下の展示と地上の展示と空中の展示をつなぐエスカレータを収める塔でした。丹下健三先生設計の近代的な大屋根から、空中都市のところから奔放な太陽の塔が突き出している。ここに1つの対極を見ることができる。対極主義と表現される発想ですが、最も遠いもの同志をあえて近くに置くことで強い意味が派生するものだと、私は理解しております。また太陽の塔とEXPOタワーを、対極にあるツインのタワーと見なすこともできるでしょう。対極主義の発想は、タワーを中心とする街づくりにも必要でしょう。単にタワーがあるだけでは不十分である。それと対極となるようなものと合わせることで、強い物語、即ち情報発信ができることを、ぜひ考えられるべきではないかと思います。

■日本を代表する新たなタワーに期待するもの

東京に聳え立った東京タワーは、東京の高度経済成長のシンボルという任務を担ってきました。これから東京スカイツリーが、21世紀の日本の空に聳え立ち、震災でダメージを受けた日本の復興の象徴になるためには、多くの人がここに愛着を持ち、自らの誇りとしていくことが必要だと思います。

私は、ぜひ東京タワーと東京スカイツリーを、太陽の塔とEXPOタワーのようにツインのタワーと見なしいただきたい。2つの塔の物語を、もう一度書くような発想があればいいのではないか。また、来年100周年を迎える大阪の通天閣との連携も、ぜひご提案したい。100年前に大阪で始まった塔のある街づくりと響き合うように、2012年、東京で塔のある街づくりが始まります。2つの塔の対比から、ある物語が出てくるかもしれません。

世界中に様々な見たことのない面白いタワーや超高層ビルが続々とできております。その中で、東京スカイツリーが日本を代表して、存在感を示すということを期待いたしまして、私の基調講演とさせていただきます。

PROFILE

橋爪 紳也（はしづめ しんや）
イベント学会副会長 大阪府立大学特別教授



・1960年 大阪市生まれ。
・2006年 大阪市立大学都市研究プラザ教授・大阪市立大学院文学研究科教授。
・2008年 大阪府立大学21世紀科学研究機構特別教授、同大学観光産業戦略研究所所長、大阪市立大学都市研究プラザ特任教授、水辺を活かした街づくりに関心を持つ橋下徹大阪府知事のもとで政策アドバイザー、大阪府特別顧問に就任。
・2009年「水都大阪2009」プロデューサー。
・2010年 上海万博大阪館プロデューサー。
・社団法人日本ディスプレイ業団体連合会理事、大阪商工会議所都市再生委員会副委員長、中之島水辺協議会会長、大阪府文化振興会議会長ほか兼務。「モダンイズムのニッポン」角川選書（2006年）、「ゆく都市くる都市」毎日新聞社（2007年）、「『水都』大阪物語」藤原書店（2010年）など、著書は約50冊。ディスプレイデザイン研究大賞、エネルギーフォーラム賞優秀賞、大阪活力グランプリ特別賞など受賞。

シンポジウム

～東京スカイツリー®の出現と街づくりイベントの可能性～



モデレーター
水野 誠一
すみだ地域ブランド推進協議会理事長

パネリスト

阿部 貴明
墨田区観光協会理事長
鈴木 道明
東武タワースカイツリー(株)
代表取締役社長
鈴木 重美
タワー評論家
宮本 宗治
静岡文化芸術大学 講師



水野 本日は、東京スカイツリーの出現というこの大イベントを迎える墨田区が、これからどのような街づくりをするべきなのかをテーマに議論を進めたいと思います。最初に、私が理事長を務める「すみだ地域ブランド推進協議会」と地域ブランド戦略の「すみだモダン」の考え方について、自己紹介を兼ねて説明をさせていただきます。

すみだという地域は、江戸時代は職人文化のメッカ、明治維新以降は生産国日本を支えた技能・技術の中心地でした。ここに文明の粋を集めた電波塔、東京スカイツリーが近々誕生する。これは画期的な文明と文化の出会いです。これを機に、すみだの匠と技の集大成を国内と世界にアピールするために“非常に新しいがどこか懐かしい”というコンセプトを持つ「すみだモダン」ブランドの創出を目的に設立したのが「すみだ地域ブランド推進協議会」です。この「すみだモダン」の展開は、すみだの文化力の構築であり、まさにブランドづくり自体がイベントであり、モノづくりのイベント化になっています。既に、様々な発表会やイベントを開き「すみだモダン」の動きがマスコミを通じて紹介されています。従来のモノづくりは、人の目につかないところで密につくる傾向が強かった。素晴らしい技術力を持った生産基地でありながら、下請け企業ばかりでご自身のブランドを持つ企業は少なかった。しかし、これからの時代はモノづくり自体をイベント化し、そしてそれを物語化していく。物語を産むモノづくりが、生き残りのカギになると考えております。

私は、商品には文明力と文化力の2つがあると考えます。文明力は品質、機能、価格などモノの善し悪しを決める

必要条件。対して文化力は、デザイン、物語、イメージなど付加価値の要素であります。この2つの要素を、織物の糸の縦糸と横糸に例えてご説明しますが、例えば、縦糸は江戸職人文化から伝統的に脈々と続いてきたすみだらしさであり、それに対して、革新・改革・文明という横糸が絡み合って初めて魅力的な「すみだモダン」というブランドができるわけです。そして、今回は東京スカイツリーという、まさに文明を極めた横糸が新しい織物をつくりあげていると思っています。

今日は、街を形成する3つの「なみ」を問題提起したいと思います。1番目は「まちなみ」で、東京スカイツリーという立派なお城に対して、どのように魅力的な城下町をつくっていくか。2番目は「いとなみ」で、ここで営まれている暮らしや商いは、やはり街の魅力であります。3番目は、それによってできる「ひとなみ」で、絶えず人の行き交いがある。この3つの「なみ」を合わせて魅力的な街になる。これが、イベントの魅力にもつながると考えます。

また、街のイベントを形成するための3つの心得を提言したいと思います。①文化と文明が織り上げられたもの ②東京スカイツリーや「すみだモダン」のコンセプトと、同期・共振し合えるイベント ③継続性、サステナビリティであります。初年度は盛んに行われたイベントが、次第に衰退していく例が少なくない。街やタワーに命が吹き込まれて、継続・進化・増殖していくイベントが大切です。そのためにタワーとすみだのコラボレーションが重要だと考えます。こうした要素を踏まえつつ、お話をうかがいたいと思います。まず阿部貴明さんからお願いします。



■モデレーター■
水野 誠一 (みずの せいいち)
すみだ地域ブランド推進協議会
理事長

1946年東京生まれ。慶応義塾大学経済学部卒業。西武百貨店社長、慶応義塾大学総合政策学部特別招聘教授を経て、1995年参議院議員(新党さきがけ政調会長)。同年、(株)インスティテュート・オブ・マーケティング・アーキテクチャ設立、代表取締役就任。2002年(株)リプロジェクト・パートナーズ設立、代表取締役CEO就任。ほかに森ビル(株)特別顧問、(株)バルス、オリコン(株)及び(株)Gホールディングス各社の社外取締役を務める。また、日本デザイン機構理事長、日本文化デザインフォーラム幹事などの活動を通じて日本のデザイン界への啓蒙を進めている。「マイナスのデザイン」日本デザイン機構編(Life Design Books)、「クルマ社会のリ・デザイン」(鹿島出版会)、「消費社会のリ・デザイン」(大学教育出版)など著書多数。

「本物が活きる街」をテーマに墨田区を活性化

阿部 墨田区観光協会は、2年前に23区で初めて社団法人として登記をしてスタートしました。今日は、PRを兼ねて墨田区らしい映像をご覧いただきながらお話いたします。協会の基幹となる事業がいくつかありますが、他の観光協会と大きく違うのは、協会プロパーで確実に儲かる仕事をする事です。先程、堺屋会長から「儲からなければ文化が育たない。変なサポートをすると衰退する」との提言がありましたが、まさに墨田区の観光もその通りで、確実に儲かる仕事を民間の皆さんと拓けていこうと考えております。

今、映っている大松染工場は現代の名工に選ばれた江戸小紋の染物工場ですが、協会で中国からの観光客のご案内をしているところです。今日着ている法被も大松染工場にお願いした特注品ですが、伝統の技術と現代の生活との接点を見つけ、確実に経済効果を生むことが当協会の仕事です。

街歩きツアーも、ボランティアのガイドをしっかり養成しながら、住民自らが街をご案内しようと取り組んでおります。育成のためにつくった教本も、墨田区を紹介する立派なものができたので、一般の皆様にも販売もしています。会場にも展示しておりますので、ご覧いただくと“なるほど”とご納得いただける内容になっております。区民をあげて街をご案内できるように、協会としてサポートしておりますが、外から来られた方々をご案内する機能として、吾妻橋、両国に観光案内所をオープンしております。水野先生からお話がありました「すみだブランド」を展示販売する場所の管理運営も当協会の事業の1つです。

観光協会として珍しい事業としては、フィルムコミッションのような事業を発展させて、地域発信のメディアの構築を進めております。これは明日の分科会で担当の課長が発表いたしますが、墨田区の住民や就労している人の手で、街の魅力を映像の形で発信できるプログラムを展開するための講座を実施しております。

もちろん、各種イベントのお手伝いもしております。昔からあるイベントはもちろん、東京スカイツリーで注目を浴びてから、新しいイベントも増えてきています。特に、ここ1～2年で出てきた自発的なイベントは、民間の資金を集めて住民が実施するものが増えてきています。8月の後半に、錦糸町の街を中心にジャズフェスティバルが開催されました。去年からスタートして2回目の開催ですが、民間のチカラだけで、特に若い人達が頑張ってくれたイベントです。人が集まるのが事前に予測できると、上手く回ってくるのだと実感しています。

これまでの墨田区は、モノづくりの奥ゆかしい職人達が集まる街で、自らPRすることが必ずしも得意ではなかった。これから国際観光都市に変わっていく中で、街も住民にも変化が求められますが、ただ私はフェイクはやってはいけないと思います。当協会も、本物が活きる街をテーマにしています。昔からの伝統や文化をベースに、今に価値を見出して生きていく。それをサポートするのが、当協会の仕事であります。

水野 やはりイベントは、自発的にできて継続していくことが大事で、補助金や協賛金に頼るだけでなく、自分達で運営して継続化できるイベントに育てていくことが重要だと感じました。続きまして鈴木道明さん、お願いします。

地域との連携を念頭に東京スカイツリーを世界一のタワーに

鈴木(道) 本日は、東京スカイツリーのプロモーションビデオをご覧いただき、詳細をご説明したいと思います。

—東京スカイツリー プロモーションビデオ上映—

東京スカイツリーは、タワーと複合的な商業施設やオフィス機能を兼ね備え、全体像は東京スカイツリータウンという位置付けです。このプロジェクトは「ライジング・イーストプロジェクト」という名称で、実はここに、私共の根底にある考え方が込められています。東京スカイツリーの建設地は東武鉄道の貨物の敷地であり、貨物輸送の廃止後は遊休の資産になっている土地でした。当時は新しい電波塔の立候補地が各地にある中で、その1つとして墨田区も手を挙げたいとご要望をいただきました。東京の開発が、都心部から臨海部や西側に軸が移っている状況の中、東側地区の活性化により、東京という都市の開発のバランスも均衡がとれてくる。こうした東側の地域の活性化を図るという考え方にに基づき、ライジング・イーストと名付けられているわけです。プロジェクトの理念として、3つの理念を掲げております。

①地域とともに活力のあるまちづくりに貢献 点ではなく面の活性化を念頭に置いております。

②時空を超えたランドスケープの創造 日本の伝統や日本



■パネリスト■

阿部 貴明（あべ たかあき）
墨田区観光協会 理事長

1961年墨田区生まれ。青山学院大学法学部卒業、米国ミシガン州立ウエスタンミシガン大学院卒業・MBA、丸源飲料工業株式会社・代表取締役社長、一般社団法人墨田区観光協会・理事長、すみだ地域ブランド推進協議会・副理事長、東京商工会議所墨田支部・副会長、東京商工会議所教育人材育成委員会・副委員長、その他教育・税務・警察等行政関連団体の役員、国・地方自治体の審議会・協議会等の委員を歴任。

的な美しさを折り込みながら、江戸やさらにその前の時間軸の中で未来をつくる景観づくりをめざしております。

③**防災面での安心と安全の提供** 地域防災機能を東京スカイツリータウンの中に設け、街づくりに貢献する整備を進めております。

開発ビジョンも、3つの顔を持っています。1つは「**都市文化創造発信拠点**」で、最先端の通信メディアとモノづくりの伝統を連携させ、新しい文化をつくり出すという考えです。「**都市型生活コミュニティ拠点**」は、日常の生活の機能を施設の中に取り入れるという発想です。「**都市型観光の広域交流拠点**」は、水野先生のおっしゃる「ひとなみ」の部分で、日本国内、世界各国から大勢のお客様にお越しいただき、観光とすみだの歴史を融合させる拠点とするという3つのビジョンがあります。

東京スカイツリータウンは、真ん中に東京スカイツリーが位置し、タワーの北側の交流広場では、イベント会場と地域防災拠点という機能を持っています。さらに、ドームシアター、オフィスを中心とするイーストタワーという高層ビルがごさいます。西から東側に続く商業施設・「東京ソラマチ」には、約310店舗の飲食・物販のテナントが入ります。

立地としては、両国・錦糸町エリアから約1.5km浅草も1km程度の距離で、景観を楽しみながら街歩きができる環境で、ターゲットとしては、**海外国内、首都圏の日帰り圏などあらゆる旅行観光を想定**しています。団体客が3割、個人客が7割くらいで、シニア世代から若年世代、家族旅行、カップル、友人と様々な旅行観光マーケットを視野に営業展開を計画しています。地域の連携を常に念頭に置きつつ、地域の皆様方からいろいろなご提案をいただき、すみだの持つチカラというものをご提案・ご提供していくことが、私共の基本の考え方です。そして、高さだけではなく、クオリティの面でも世界一のタワーだとお褒めの言葉をいただくことで、すみだを世界に発信していきたいと考えております。

水野 東京スカイツリーは、日本刀の反りとか五重塔の免震構造であるとか、日本的な文化もきちんと組み込んでつくられている。**文化文明が見事に融和したプロジェク**

トだと、今のお話をうかがって大変感動いたしました。今日は鈴木さんが2人いらっしゃいまして、次は「タワー評論家」の鈴木重美さんをお願いします。

キーワードは「〇〇と東京スカイツリー」

鈴木(重) 自称、タワー評論家の鈴木です。先輩の“夕日評論家”から“名乗った者勝ちだよ”とアドバイスされて名乗っています(笑)。ただ、著書などがないとハクが付かないので、「このタワーがすごい!」という本を書きました。タワー評論家の立場から見た墨田区は、まさに憧れのエリアです。私の周囲にはタワーマニアが多くて、東京スカイツリーの建設が始まって以来、少なくとも3人は引越しました(笑)。それで、タワーのできる様子をずっと楽しんでます。既に流入が始まり、墨田区にタワー好きがどんどん入ってきている。聞くところによると、東京スカイツリーは年間600万人、下の商業施設を合わせると2500万人の人が訪れると言われていますが、実際はとてつもなく多くの人が訪れることになるでしょう。ちなみに、東京タワーは年間500万人の人が来ました。それはエレベータをフル稼働しても、相当数の人が並んだと思います。東京スカイツリーも、数時間並んでも魅力のあるタワーになるのではないかと思います。

神奈川新聞では「タワーの旅」という連載を今年3月から来年3月まで毎週日曜日に続けています。実は、まだ東京スカイツリーは出ていません。時期はいつにしようかと神奈川新聞の担当者と相談していますが、東京スカイツリーは3週間連続で紹介しますので、その時は改めて皆さんから情報収集をお願いしたいと思います。

私の自己紹介と宣伝をさせていただきましたが、リリー・フランキーさんの著書「東京タワー オカンとボクと、時々、オトン」という物語の中で、当時の東京のスターは“長嶋茂雄と東京タワーだ”と言っていました。これからは「**〇〇と東京スカイツリー**」が、キーワードになると予感しています。例えば、**花火と東京スカイツリー、すみだの街と東京スカイツリー**という形で、何かと重なって東京スカイツリーの魅力がさらに増すと思いますので、みんなで東京スカイツリーと墨田区を盛り上げていきましょう。

水野 タワー評論家として一番期待するポイントは？

鈴木(重) やはり、高さだけではなくエッフェル塔のように1889年から永遠に続く魅力だと思います。

水野 どんどん新しい物語を生み出す持続性が大事だということですね。それでは宮木宗治さんをお願いします。

タワーが成熟型都市の未来を拓く

宮木 東京スカイツリーの下調べをしていて、ある山が気になりました。登山客数で世界一、年間約260万人登っ



■パネリスト■

鈴木 道明（すずき みちあき）
東武タワースカイツリー株式会社
代表取締役社長

昭和31年 東京都生まれ
昭和54年 武蔵大学経済学部卒業。同年東武鉄道株式会社入社
平成15年2月 同社鉄道事業本部営業部長
平成18年 東武トラベル株式会社取締役社長
平成22年6月より現職

ているそうです。ご存知のように高尾山ですが、599.3mで何と東京スカイツリーは高尾山より35m高い。山のような圧倒的な高さだと改めて実感しました。

私は出張をするときよく高いところに昇ります。函館の五稜郭タワーは、展望が非常に素晴らしくて、眼下に星形の西洋型の城郭が見下ろせます。ここで既にもう24回行われているのが、市民創作函館野外劇です。先程の橋爪先生の話にもありましたが、市民の誇りとなるような内容で構成されています。市民が参加して、江戸から明治に至る激動の時代の物語を展開します。ペリーや土方歳三が登場し、戊辰戦争、函館戦争をテーマにした時代スペクタクルをやっています。タワーとイベントということでご紹介致しました。

今回のイベント学会研究大会の冠テーマは、「イベントが都市を創造する」です。これは2009年に「開港150周年開国博Y150」が行われていた横浜での研究大会で初めて出したテーマです。2010年もこのテーマで、大阪で研究大会を行いました。都市は1つの歴史的な歩みがあり、発展途上型都市と成熟型都市の2つに大きく分けることができます。発展途上型都市は、大規模イベントを行うケースが多い。昨年の上海万博あるいはかつての大阪万博など、発展途上にある都市のインフラ整備を裏の目的として、大規模なイベントが行われています。巨額な金が動くということで、囲い込み方の大規模イベントとして博覧会が行われる。一方、成熟型都市では、街の魅力とは何なのかということをもう一度振り返る。開放型の街歩き型イベントというものが増えてきています。愛媛の「町並み博」、金沢の「まち博」、長崎の「さるく博」に代表されるように、**街歩き型で都市文化を再発見する**1つの流れをつくりはじめています。

しかし都市も人間の寿命と同じように、老朽化して陳腐化する。都市の衰退に立ち向かうために、**改めて都市のインフラの再整備・再構築が必要になってくる**。成熟型都市を老朽化・陳腐化から救うために、ネクストステージでもう一度発展を遂げる必要があるわけです。それがこの東京スカイツリーの登場です。江戸情緒の残る伝統の技が継承されている地域とのコントラストが、新たな可能性を産むのではないのでしょうか。

イベントの原点は「何だ!これ!」という、今までにない



■パネリスト■

鈴木 重美（すずき しげみ）
タワー評論家

1961年横浜生まれ。小学5年生の時、大阪万博 で岡本太郎の「太陽の塔」に出会い、タワーのエネルギーに魅せられる。大阪万博・愛知万博の展示を手掛けたデザイン施工会社・丹青社でタワー関連の企画に関わり、タワー熱が更に高まる。今までに訪れたタワー、塔は100に到達する。高所恐怖症ならぬ、高所愛好家。ラジオ、テレビ、雑誌等でタワーを評論する。『神奈川新聞』にて「タワーの旅」連載。
ブログ:web版「タワーの旅」[http:// towertrip.exblog.jp](http://towertrip.exblog.jp)

意表を突くような驚きです。同じ時間や同じ空気を共有することにより、人々とさまざまなコミュニケーションができる。あるいは心に忘れられない体験ができる、ということがイベントによって生まれてくる。ありがたいものを見せて貰ったという、感謝の気持ちなども表われてくる。「百聞は一見にしかず。されど百見は一行にしかず」この言葉は中国の客家のことわざらしいですが、見るためには行かなくてはならない。建築中の東京スカイツリーの写真撮った人達は、おそらく1回は訪れるでしょう。「自然に人の流れができる」「そこには群がる人の姿」。ここで大きな課題は、そこに群がった人達を今度はどこに流していくか?「次に人々が向かう先は?」ということで、受け皿も非常に重要になってくる。新たなビジネスチャンスや、いろいろな体験ができるものが、これから数多く出来上がってくことに期待したいと思います。

すみだらしさを生かした街づくりイベントとは

水野 東京スカイツリーはそれ自体がイベントでもあるのですが、宮木さんのお話のように受け皿としての街づくりが大変重要になってくる。一方で、全国でシャッター商店街が増えている反面、押上・業平では空店舗を借りたい人がどんどん増えている。若い人達が何か面白い商売をやりたいと言って借りている。これはいい街づくりに、大きな期待ができるのではないかと感じました。受け皿としての街づくりに対する皆さんのアイデアなどもうかがいたいと思います。

鈴木(道) すみだの地域特性は、一般的に下町、人情、江戸と昭和を感じられるエリアだと思います。東京スカイツリーという、現代を象徴する施設にお越しいただいた方が、ふっと懐かしい空気を感じられた時に、どこで面白い体験ができるのか、私共がご案内できる体制をつくるのが重要だと思います。墨田区観光協会ではそのようなメニューを各種ご用意されているので、お互いにハンドシェイクすることで、お客様に受け皿をご提案したいですね。その他の観光業などに携わる企業や個人のお力も借りながら、タワーと墨田区のブランドを広くご提供できるものと考えております。



■パネリスト■

宮木 宗治（みやき むねはる）
イベント学会理事
静岡文化芸術大学 講師

早稲田大学法学部にて法律を専攻。1973年、株式会社博報堂に入社以降、30数年間マーケティング領域で、リサーチとプランニングを専門分野として担当。ディレクター、部長職を経て、2003年より社団法人日本イベント産業振興協会に外向。調査・研究本部長就任。2009年3月博報堂を定年退職。
1998年イベント学会設立の際、準備委員として奔走。現在は理事・研究主幹として毎年研究大会の企画・運営を担当。
2003年より、静岡文化芸術大学にて「広告論」、「プレゼンテーション技法」を担当。2010年より、東洋大学にて「イベント企画論」を担当。同年、江戸川大学にて「イベント基礎講座」を担当。三校とも、非常勤講師として現在に至る。

水野 やはり、共同作業がとても大事なような気がしますね。観光バスで東京スカイツリーに来て、パッと銀座や浅草に連れ去られてしまうということでは大変困る。阿部さんにその連動の重要性をお聞きしたいのですが。

阿部 墨田区は、良くも悪くも平穏にそれなりの生活を続けてきました。ここが国際観光都市になった時に、住みにくい、住めない、出て行きたい街には絶対に墨田区民としてなつて欲しくない。**一度は行ってみたい、一度行ったら何度か行ってみたい、いつかは住んでみたい**憧れの街にしたい。これを実現するためには連携が大切です。一番重要なのは墨田区民そのもので、単に街のガイドをするだけではなく、自分達の住んでいる様子をどこまで見せるか。そのこと自体が観光資源につながる部分でもあるので、ずっと考えていることの1つです。

水野 祇園祭を観に行く京都観光もありますが、普段の京都の錦市場の賑わいを楽しむのは、決して非日常ではなく日常の観光だと思うんですね。おそらく、墨田区の魅力もそこにあるんじゃないかと。もちろん、新しいイベントをつくることも大切です。最近は地域の住民が、祭を復興する動きが多く、大阪では山車がなくなっている地域のみんなが大金を集めて「だんじり祭」をもう一度復興しようという動きもある。すみだでも、新しい動きが必要だと思いますし、**日常のすみだの暮らしの何とも言えないおやかさも大切**だと思うのですが。

宮木 新しい観光施設ができて人の流れができると、住民が大きなストレスを感じるケースは多いですね。合掌造りで有名な白川郷などもそうです。日常の生活をジロジロ見られるわけで、その環境整備は簡単なことではないと思います。そういう意味では、阿部さんが取り組んでいる、ITを活用した観光情報の提供が活きてくるのでは。通ってもいい場所と、通らない方がいい場所などがリアルにきめ細かく提供できると思います。コースやプログラムづくりが大きなカギになると思いますが、阿部さんはどのようにお考えですか？

阿部 墨田区が他の観光地と比べて致命的に違うところ

は、戦争などで観光の名所にあるような古い建物、要するに物理的なものが何もない。その中で道具が発達してきた。**古地図や古い写真などを、拡張現実やGPSのシステムと組み合わせることで、事実として存在していた歴史を感じながら街歩きができる可能性が出てきました。ツールを上手く使う方法**が出てきたことは、墨田区の観光にかなりの追い風になっていると感じています。

鈴木(重) タワー評論家の立場から言いますと、**東京スカイツリーは完成するまでに既に物語がある**。こんな建築物は珍しいと感じています。開業した瞬間に回顧展ができるほど既に歴史がある、素晴らしい観光資源ではないでしょうか。私の本業は写真教室の運営ですが、日本一のモデルは富士山なんですね。しかし、一番人気があるのは東京スカイツリーです。東京スカイツリーと撮影会と題したワークショップを開催すると、あっという間に定員が一杯になります。しかも、参加者は地元の方が多い。地元の方が有料で東京スカイツリーを撮りに行くほど、強い愛着をお持ちだと感じています。

世界が認める世界一のタワーへと発進

水野 それでは最後に今日の感想などをいただいて、シンポジウムの締め括りといたします。

阿部 墨田区では、嬉しいことに人口がどんどん増えている。今までの墨田区の良いところをしっかりと残しながら、墨田区自身が大きく変われるといいなと思っています。

鈴木(道) 皆さん方からいただいた物語というキーワードが印象的でした。地域との連携を大切に新しい物語がつかれるよう、多くの方々から愛される世界一のタワーになれるように頑張っていきたいと思います。

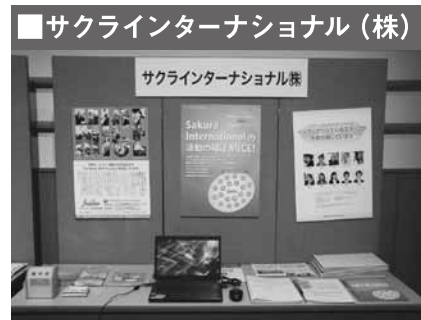
鈴木(重) タワーには、見下ろし効果と見上げ効果の2つの効果があります。見下ろし効果は、年間600万人しか味わうことができません。ただし、見上げ効果はすみだの街を歩けば体験できる。見上げる＝元気になる、ということで**東京スカイツリーの誕生が、日本中を元気にする**と思っています。

宮木 やはり、ネクストステージというのを感じますね。ネット社会に変わってきたところに、**東京スカイツリーができてこの街を再構築する**。実験都市としての面白さを感じます。

水野 今日のテーマにもなった、非日常と日常がどうミックスされて、楽しい街づくり、楽しいイベントが生まれてくるか、残された準備期間は1年を切っていますが、市民もどんどん参加して楽しいイベントづくりをしていきたいと期待しています。本日はありがとうございました。

展示ブース発表

後援団体や法人会員による展示ブース発表



■サクラインターナショナル (株)
The Global MICE Producerとしてのイベントの可能性とサクラインターナショナルの組織力と生産体制について説明



■ (株) 日本ラベル
イベント関連におけるポスター、パネル、POP等の印刷加工のご案内



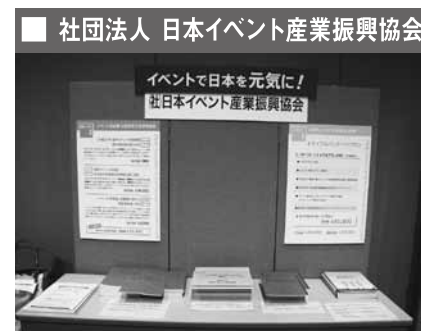
■ (株) ムラヤマ 感動創造研究所
「感動創造研究所」の紹介とPR



■ (株) 電通
電通の書籍の紹介



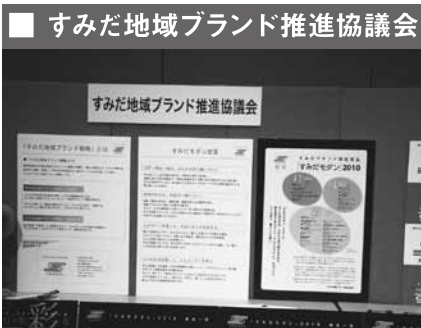
■ (株) 博報堂
博報堂の書籍の紹介



■ 社団法人 日本イベント産業振興協会
イベントで日本を元気に！



■ 墨田区
墨田区の魅力、産業と観光



■ すみだ地域ブランド推進協議会
すみだ地域ブランド戦略のご紹介

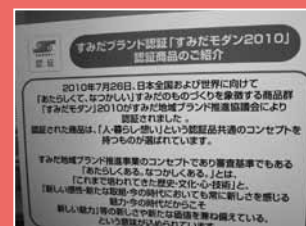


■ 一般社団法人 墨田区観光協会
すみだ、街歩きの魅力と観光情報



■ 東武タワースカイツリー (株)
2012年5月22日開業、東京スカイツリー®のご紹介

すみだ地域ブランド推進協議会の認証商品である「すみだモダン2010」の品々も紹介。



レセプション

シンポジウム終了後のレセプションは、パネリストの皆様をはじめ法人会員や個人会員の皆様にお集まりいただき交流を深める場に。

向島百花園「茶亭さはら」亭主の佐原滋元氏によるプレゼンテーションでは、向島界隈や墨田区のイベントの紹介なども行われた。

■主催者挨拶■

成田 純治
イベント学会理事長
(株)博報堂代表取締役会長



イベント学会第14回研究大会を、ここ墨田の地で東京スカイツリーを見上げて開催できたことを、心から御礼申し上げます。また、今回の開催につきまして、ご尽力くださいました皆様方に改めて感謝を申し上げます。

本日、皆様方のお話をお聞きしながら、震災復興に向けて新しい元気力を日本に与えていくことが、イベント学会に課せられた大きな使命ではないかと痛感いたしました。今の日本に、東京に、そして墨田区にとって、来年5月にオープンする東京スカイツリーが、新しい力になることは間違いないと思います。新しい活力をさらに盛り上げるために、我々イベント学会ができることを、もう一度イベントの原点に返って考えていく必要があると思います。

今回、この研究大会の開催にあたりまして、墨田区、すみだ地域ブランド推進協議会、そして墨田区観光協会、東京商工会議所墨田支部、向島学会の皆様にご支援をいただきましたこと、改めて御礼申し上げます。また、今テーブルの前にありますお飲み物は、この地に本社がありますアサヒビール株式会社から大いなるご支援をいただいたものでございます。ゆっくりお時間の許す限りご懇談をいただきたいと思います。

明日の口頭発表では、復興イベント関係の発表がいくつかあります。私も、明日朝から拝聴したいと思っていますので、皆様もぜひ足をお運びいただきたいと思います。



「東京スカイツリー周辺のブランドづくりと日本の名物となるイベントづくりを、墨田の方々と一緒に考えていきたいです」と乾杯の挨拶を述べる堺屋太一会長。



向島百花園「茶亭さはら」亭主として、また墨田区観光協会理事、向島学会副理事長としてご活躍の佐原滋元氏のプレゼンテーションでは、墨田区で行われる様々なイベントが紹介された。



レセプション司会者の沖佳保里さん。



レセプションには、村岡ケンイチ（左）・田畑伴和（右）両会員のご協力で「似顔絵コーナー」も出展。



橋爪紳也副会長の中締めで1日目は閉会。



オプションナルツアー（墨田区観光協会主催）

墨田区観光協会のご協力によりレセプション終了後にオプションナルツアーを実施。

回向院（ねずみ小僧のお墓等）、吉良邸跡（忠臣蔵）、勝海舟生誕の地などを巡る両国街歩きと伝統の味を組み合わせた2つのコースをお楽しみいただきました。



ちゃんこコース

土俵のある「ちゃんこ吉葉」で、本場のちゃんこ鍋に舌鼓。



かどやコース

鬼平犯科帳に登場する軍鶏鍋屋「五鉄」のモデルで、池波正太郎も通った名店「かどや」で軍鶏鍋を堪能。



口頭発表

8日(木)の口頭発表では21題の研究成果を発表。東日本大震災の復興に向けた研究や、イベントに関する様々なテーマの研究発表と活発な質疑応答が行われた。



106号室

■越川延明 日本イベント産業振興協会

持続可能性を考慮したイベントで地域を活性化
「ISO 20121 イベントの持続可能性に関するマネジメントシステム」の活用提案

ISO20121の具体的な活用例とその発展性に関する研究を発表。



■貝辻正利 神戸大学大学院

雑踏事故分析による会場適正に関する研究
～高密度群集滞留の群集現象と拡大プロセス分析を通じて～

雑踏事故を未然に防ぐ正しい判断やプロデューサーの責任などを解説。



■田中摂 (株)乃村工芸社

地域力のための調査手法の報告
長崎県の事例より

長崎県内の文化資源を生かした地域力向上のための調査報告と今後の発展性を発表。



■坂牧政彦 (株)電通

マラソンイベントのビジネスフィールド
東京マラソンの成功を背景に
全国に広がる都市型大規模マラソンの舞台裏を検証する

全国に広がる市民マラソンブームの分析と今後の可能性を検証。



■上代圭子 東京国際大学 講師

日本国内におけるマラソンイベントの現状

マラソン、ランニングブームの継続的な発展を目的にした調査研究および結果を発表。



■下山田翔 東海大学大学院

英国NGSオープンガーデンの
レジャー性とチャリティー意識

フィールドワークを通じて検討した、英国NGSオープンガーデンの調査報告を解説。



■友野健一 墨田区観光協会

墨田区の観光資産を活用したプロモーション事業
～2012年5月の東京スカイツリー開業に向けて～

現在推進中の墨田区観光協会の具体的な取り組み事例と今後の展望を紹介。



■平家良美 (株)京都総合研究所

古都・京都における“温故知新イベント”の可能性に関する一考察

世界文化遺産の寺院を中心に“温故知新イベント”の事例と可能性を解説。



■田近拓也 慶應義塾大学大学院

まちあるき型イベントとしての観光ガイド事業の現状と可能性
～全国観光ガイド事業調査による地域まちづくり活動に及ぼす影響の実態把握～

全国観光ガイド事業実態調査を通じて分析した結果や可能性について発表。



■宮地克昌 東京観光専門学校 講師

実施を前提とするイベントを組み込んだ授業

学生を“やる気”にさせるリアリティのあるイベント教育の実践事例を紹介。



107号室

■寛裕介 (株)博報堂 hakuodo+design

震災+Design
デザインは震災時の避難所のために何が可能か。

阪神淡路大震災を機に生まれた被災者の暮らしを支援するアイデアを紹介。



■加藤良子 (株)エンコーポレーション

『東日本大震災の祈りと鎮魂』
～過去の事例と集い(イベント)のちから～

過去の震災における慰霊祭などの調査から見てきた現状を報告。



■刈本博保 (株)こんてんつ

自然災害への世界規模での対応

自然災害に対する世界規模での早急な対応の必要性を提案。



■会田裕之 地域デザイン研究所

東日本大震災における地域産品の風評被害の影響と、その克服に向けてイベントの持つ可能性について

震災による風評被害の影響を紹介し「日本ブランド」の再構築の必要性を提言。



■岡本岳大 (株)博報堂

食べよう東北、食べよう日本
赤坂「きぼう食堂」ケーススタディ

研究と実践を兼ねて行った、赤坂「きぼう食堂」の事例と今後の展望を紹介。



■遠藤秀 (株)電通

イベントによる震災復興支援
～「岩手県大槌町合同慰霊祭」「東北六魂祭」の実施を通じて～

しめやかに行われた合同慰霊祭と大反響を呼んだ仙台の祭の事例を報告。



■太田正治 日本イベント産業振興協会

東日本震災復興支援研究テーマ
「アートと音楽で伝統芸能の持続可能な継承を」

被災地における伝統芸能の継承を研究テーマに調査計画と今後の行動計画を発表。



■石川敦子 (株)乃村工芸社

復興博覧会の軌跡
～「乃村工芸社 博覧会資料COLLECTION」より～

関東大震災以降に行われた復興博覧会の事例を通じて、その目的や効果を解説。



■福井昌平 (株)コミュニケーション・デザイン研究所

「東北復興博覧会構想」
～博覧会を活用した復興・再生戦略～

被災地の復興・再生に寄与する博覧会事業の必要性と可能性に関する研究を発表。



■徳田裕子

展示会・見本市における、訴求対象の考察
～B to B中心産業から、B to B+Cの可能性と課題～

一般公開が増加するファッション業界における展示会・見本市の事例を紹介。



■早川敬一 日本イベント産業振興協会

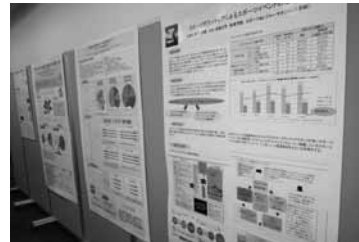
イベントの経済波及効果

国内イベント市場規模推計結果に表われるイベントの経済波及効果の規模や意義を解説。



ポスター発表

4題の研究成果をまとめたポスター発表。口頭説明ではお互いの意見交換なども。



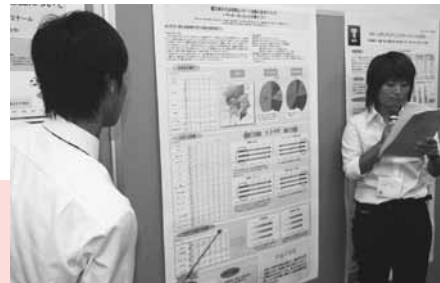
- **内田なお子 (株)昭栄プリント**
上智大学公開講座「イベント学入門」体験レポート



- **尾名高悠太 順天堂大学スポーツ健康科学部**
スポーツマーケティングゼミナール
プロスポーツチームの震災後の活動に対する意識について
～サッカーおじさんを対象として～



- **山本早希子 順天堂大学スポーツ健康科学部**
生涯スポーツ国際比較ゼミナール
震災後の生活時間とスポーツ活動の変化について
～サッカーおじさんを対象として～



- **萩裕美子 東海大学 体育学部**
スポーツ&レジャーマネジメント学科
スポーツボランティアによるスポーツイベントの活性化



● イベント学会入会手続き ● ● ● ●

1. 入会ご希望の方は、申込書(会員種別)にご記入の上イベント学会事務局あてで郵送ください。申込書は学会Webからダウンロードするか事務局へご請求ください。
2. 申込者については理事会等で審査し、入会を承認された方には入会承認書と振込み案内をお送りしますので入会金(初年度のみ・準会員は不要)と年会費を指定の口座にお振込みください。
3. これ以降、会報『イベントロジー』や研究報告書、研究大会・交流イベントなどのご案内をお届けします。

イベント学会会費一覧(2011年4月～2012年3月)

会員種類	入会金	年会費	備考
1) 個人会員	5,000	10,000	個人
2) 準会員	なし	2,000	大学生、大学院生、専門学校生など
3) 自治体会員	20,000	50,000	地方自治体
4) 法人会員	(1口) 100,000	(1口) 100,000	企業、団体などの法人

※法人会員は1口以上

(単位:円)

閉会式

2日間にわたって開催したイベント学会第14回研究大会の締め括りは、師岡実行委員長の総括による閉会式。「2日間にわたる熱心な討論と発表はイベント学会の歴史に残っていくと思う。1日目は東京スカイツリー、2日目はおもに震災復興をテーマに進めてきたが満員の会場で議論が行えたことに御礼申し上げたい。最後にこの大会を支えていただいたボランティアの皆様に感謝の拍手をお贈りしたい」と挨拶。



恒例の実行委員とボランティアスタッフで記念撮影を行い全プログラムを終了。

ボランティアの皆様に感謝！

今年も多くの方の皆様に実行委員会スタッフとしてご協力いただきました。また、インターンとしてご協力いただいた学生の皆様に心より感謝いたします。

大会実行委員会

委員長：師岡 文男（上智大学教授）
副委員長：萩 裕美子（東海大学教授）
事務局：川本 一秀 / 猪野 隆秀（(株)博報堂プロダクツ）

実行委員 個人会員・法人会員の有志

荒川 弘毅	内田 なお子	沖 佳保里	加藤 良子	金原 貫太郎	北村 明	國田 圭作
小島 敏明	猿渡 俊輔	上代 圭子	竹村 公一	野川 春夫	朴 載午	養島 毅
宮木 宗治	米山 玲子					

インターン 準会員の有志

伊藤 俊貴	大越 光介	大町 佳央瑠	欠端 真梨奈	岸端 志織	金森 涼	寒河江 核
竹本 理沙	譚 文彬	手島 由貴	戸塚 理央	中嶋 太郎	浜田 千絵	平澤 美穂
平林 久周	藤麻 恵理	山田 和弘	山本 早希子	渡邊 夏海		

(五十音順：敬称略)

■ 2011年度の助成研究が決まりました ■ ■ ■ ■

9月に開催した研究助成審査会の結果を受け、2011年度の助成研究は以下の2件に決定しました。

① イベントの情報入手に関する調査：

展示施設来場者の情報入手方法について ー有料展示と無料展示の比較からー

(申請者) 安藤 美奈 東京芸術大学大学院 美術研究科リサーチセンター 教育研究助手
(共同研究者) 橋本 幸子 株式会社グローバルゲートウェイCOO

② 大規模イベントの会場アクセス動線上における高密度群集滞留に起因する雑踏事故発生メカニズムに関する研究

(申請者) 貝辻 正利 神戸大学大学院 工学研究科 博士課程
(共同研究者) 北後 明彦 神戸大学大学院 都市安全研究センター 教授
四方 修 四方ファンド 代表取締役

金曜サロン(キンサロ)

イベントビジネスに携わる様々な分野の皆様と、イベントに関心をお持ちの学生の皆様の情報交流の場として定期的に開催しているイベントです。このサロンを通して、新しい人的ネットワークが形成され、参加者の皆様の生活とビジネスがより充実されることを目標に開催しております。

開催日時：ほぼ毎月の最終金曜日 18:30～21:00

場 所：東京・大阪・京都など

参加費：1,000円



プレゼンテーション



交流パーティ

イベント学研究会

イベント学の研究推進と会員相互の交流を図るため、特定テーマを設定のうえ研究発表、意見交換を行っています。研究会の開催日程につきましては、メールニュース、学会Webで随時お知らせします。

- ・「復興イベント研究会」座長:野川 春夫 副会長
- ・「中国イベント研究会」座長:宮地 克昌 理事
- ・「イベントマネジメント研究会」座長:岩崎 博 理事



「復興イベント研究会」トピックス

10月14日(金)、秋葉原UDX4階UDXオープンカレッジにて開催した復興支援異分野連携プロジェクト第4回「復興国際博覧会構想会議」にて、復興イベント研究会のメンバーである福井昌平、宮地克昌両会員が研究成果のプレゼンテーションを行いました。

「東北復興博覧会構想」研究を発表した福井昌平会員



「東日本“花緑”復興プロジェクト」を発表した宮地克昌会員

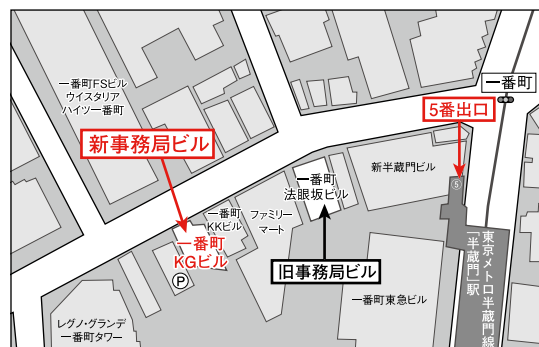


● 事務局移転のご案内

イベント学会事務局は下記の住所に移転いたしました。

新住所) 東京都千代田区一番町 13-7
一番町 KG ビル 3F

※ イベント学会事務局は日本イベント産業振興協会の事務所の中にあります。
TELおよびFAXについては従来と同様の番号です。



「イベントロジー」
NO.26/2011.Nov

◎発行人:堺屋太一 ◎編集人:小林政則 ◎発行日:2011年11月
◎発行所:イベント学会事務局 〒102-0082 東京都千代田区一番町13-7(一番町KGビル3F)
TEL:03-5215-1680 FAX:03-3238-7834 URL:<http://www.eventology.org/>